

田舎暮らしのみちしるべ

第32号

平成27年9月11日発行

E-mail chiiki@city.iwakuni.lg.jp

第15回 IJU（移住）応援団交流会 in 長谷

【第15回 IJU 応援団交流会を開催しました】

平成27年7月8日（水）美和町長谷地区の旧長谷小学校にて、IJU（移住）応援団長谷地区ふるさとづくり推進協議会主催により開催した。IJU（移住）応援団、移住体験者をはじめ、美和町に深い関係の、岩国往来まちづくり協議会の会長、山口県からは岩国県民局、また、市からは各総合支所・支所も参加した。

はじめに恒例の参加者全員の近況を含め、自己紹介がなされた。今回は新しい IJU（移住）応援団の参加があった。柱島の島づくり推進協議会の森岡信孝新会長、祖生地区の新規 IJU（移住）応援団田村義晴氏、新たに IJU（移住）応援団が結成された美和町下畑地区の梶原英俊氏が参加された。また、祖生の農家民宿経営の藤森和子氏と地元支援者の平岡邦夫氏も参加され、IJU（移住）応援団が増えた。

IJU（移住）応援団の各地域では本事業開始以来8年間で人口減少、高齢化率はそれほど大きな変化は見られなかった。その中で、人口20人を維持し、若い家族の移住により大幅に高齢化率が改善した（90%が45%）地域もあった。人口の少ない集落では移住の効果は大きい。応援団の多くは地域外の支援の活用而努力し、地域のマンパワーの減少へ対応している。今後は地域外が支援したくなる情報を発信して行くこと、地域の交流・受入れ体制の意欲促進がより必要になる。

幹事 IJU（移住）応援団の活動報告：5つの取組をしている。①観光・体験交流。②地域内の親睦・交流。③農業の継続・後継者確保。④交通。⑤身の回りのこと。①としてホテル観賞の夕べ、岩国往来の整備がある。ホテルの棲める環境の維持と地域内外の交流を目指し、また、地域内を通る岩国往来では難所の松尾峠を含めた10kmの整備を、岩国往来まちづくり協議会、米軍海兵隊の支援で実施。

また、休校の長谷小学校の活用を図っている。本地区は地域外からの支援を受けると同時に、現在、近隣の地域と一緒に町内の支援を必要とする地域への活動も開始し、支援の輪を広げている。



左：参加者集合写真

右：交流会風景

意見交換会

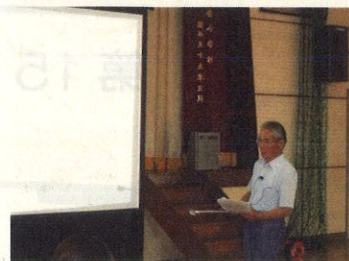
【若者の移住を促進】地域へ若者が移住した効果は大きい。若者は資金がないので、更なる支援制度の充実が必要なのではないか。専業農家は後継者を求めているが、農業学校など専門の教育を受けた人材に来てもらうことが必要。また、勤務地が街中でも若い家族で自然の豊かな環境で子育てをしながら地域に住むのも良い。地域としては若い世代の様々なライフスタイルを受け入れ、支援・共生して行く必要があるのではないかと。若者に活用してもらう土地や資源の現状を把握しておくことも必要。

【Uターン促進】Uターンして多くの方が活躍しているが、極一部、地域になじまない人もいることが報告された。地域は助け合いで成り立っていることの理解をしてもらうことが必要。

【提案】地域への外部からの支援を制度化できないか。

現在、県から地域の課題解決に向けた応援隊の派遣申請ができる。市でも地域支援ボランティア活動団体の支援を開始している。地域の情報発信を活発に行い、支援者の発掘・関心を喚起することが必要。

【移住者へのアンケート】自然、地域の人とのふれあい、家の広さには満足。全世代を通じて共通する要望は、仕事、住む家、病院、買い物の不便改善があげられた。住む家については、トイレ、台所の改修等があった。リタイア世代も現金収入の手立てを模索している。ミドル層で移住した場合、仕事の面での見込み違いがあるようだ。自然の豊かな中山間地域での生活には、それなりの技術、熱意が必要で、少なくとも自然に接することをしたいとの要望がないと難しい。



地域ささえ愛交付金事業

地域づくり活動に係るパネル展開催

8団体、51事例の活動紹介。

9月15日まで、市役所1階ホールにて



上段：長谷地区風景

中段：上村会長報告

中段：地域振興課長挨拶

下段：チェーンソーアート
制作活動メンバー

UJIターン就職説明会が開催されます

山口県内9自治体へのUJIターンを考えている方の「やまぐち暮らしセミナー」が東京で開催されます。

【東京会場】2015年10月3日（土）12:00-15:30。ふるさと回帰支援センター

（JR有楽町駅前 東京交通会館6階）。（内容）就農相談、定住支援、その他公務員相談コーナーもあり。

空き家の登録、ボランティアのIJU(移住)応援団の立ち上げ申請を、常時受け付けています

UJIターン促進事業では、空き家情報制度をIJU(移住)応援団制度と併用して運用しています。

この理由は単に空き家をなくすことではなく、空き家を活用して移住していただき、地域活性化を図ることにあります。このためには、空き家の活用、移住者の受入れが地域の共通認識となっていることが必要です。IJU(移住)応援団は空き家発掘、空き家見学者への地域の説明、移住者の支援など、地域の皆様とともに推進しています。活用できそうな空き家を是非、ご紹介ください。

事務局から 移住応援団だよりの発行が大幅に遅れてしまいました。新規に立ち上がったIJU(移住)応援団の皆様の紹介は、次号33号でさせていただきます。